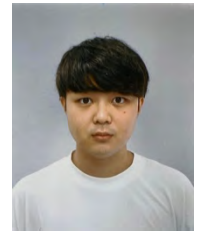


# SIPPO

## － 小児緩和ケア施設の先導 －



DZ19139 溝渕喬一朗

### Keywords

小児緩和ケア ホスピス 芸術療法

### 1. はじめに

日本には難病のこどもたちが15万人いると言われている。その中でLTC(Life-Threatening condition)と言われる生命を脅かす病気のこどもたちは約2万人いる。そんなこどもたちは入院治療を終えた後、在宅で医療的ケアを行いながら生命を脅かす病気と暮らすのだから、そういったものの支援を行う施設は不足している。

### 2. 小児緩和ケアについて

#### 2.1 小児緩和ケアとは

小児緩和ケアとはLTC（生命を脅かす病気）と共に生きるこどものために、身体的、情緒的、社会的、スピリチュアルな要素を含む全人的かつ積極的な取り組みのことである。これはこどもたちのQOLの向上と家族のサービスに焦点を当て、苦痛を与える症状の緩和、レスパイトケア、臨死期のケア、死別後の家族のケアの提供を行っている。またこどもに限らずこのような緩和ケアを行う施設をホスピスという。

#### 2.2 小児緩和ケアの歴史

こどもホスピスというものは1982年にイギリスで当時シスターであったフランシス・ドミニカが知り合いの親御さんから重い病気をもつヘレンという2歳の女の子を預かったことから歴史が始まった。親としては我が子がたとえ病気であったとしても家でケアを行いながら一緒に過ごしたいと思うのはごく普通のことである。しかし、そうなるとその子どもの親は24時間子どもの世話をしなければならず、同時に兄弟がいる場合は他のこどもたちを育て、家事も行い、収入も得なければならない。フランシスはそんな家族の状況に気づき、医療ケアが必要なこどもを一時的に預かることのできる世界で初めてのこどもホスピス、ヘレン・ダグラス・ハウスを設立した。その思想が世界で広がっていき様々な国でこどもホスピスが設立され始めた。

#### 2.3 日本での小児緩和ケア

日本では2012年に淀川キリスト教病院にこどもホスピスが初めて設立された。日本において、こどもホスピスの歴史は浅く、現在、東京に1箇所、神奈川に1箇所、大阪に2箇所の計4箇所しかない。

### 3. 敷地分析

#### 3.1 敷地について

今回選定した敷地は神奈川県横浜市金沢区にある小柴貯油施設跡地である。面積は526,205平方メートル。この敷地の周りには横浜市立大学付属病院という小児科の内包した病院が車で5分ほどの場所にあり、他にも八景島シーパラダイスや海水浴場、小学校や幼稚園も近くにあるため子連れの家族が多い場所である。

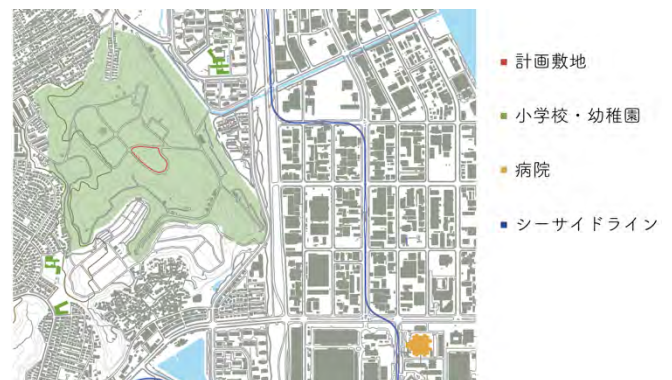


図1 小柴貯油施設跡地周辺図

#### 3.2 歴史

この貯油施設跡地はもともと日本海軍の施設があった場所なのだが、戦後昭和23年に米軍に接収された。その後昭和52年に金沢地先埋立に伴う移設工事で貯油タンク場が建設された。しかし昭和52年に6号タンクが爆発し、火災が発生。消火活動が行われるもその後タンク場は放置されることとなった。そして平成17年にタンク場敷地全域が日本に返還され、簡単な植栽工事がおこなれたが、今もなお放置される結果となった。また選定敷地は旧海岸線が通っており、敷地北東側は1968年から1972年にかけて行われた金沢地先埋立事業によって埋め立てられた土地である。埋立地には工業用地と住宅地が存在している。

#### 3.3 文化

対象敷地の地域では1999年から年に1回、金沢文庫芸術祭というものが開かれている。この祭は「アートを通じて想像の芽を育み、次世代に何かを伝えたい」という願いのもと、金沢区近郊で活動する作家、アーティストと地域住民をつなぐ活動を行っている。9月から約1ヶ月間金沢区で絵画、オブジェ、アクセサリー、陶芸品など

の作品展、演劇、コンサート、演奏会などのライブ、いろいろな手作り体験ができるワークショップなど、街中で様々なイベントが彩られ、活気溢れる期間になる。

### 3.4 公園計画

現在小柴貯油施設跡地は「緑からつくり育む体感公園」をテーマに広域公園として計画されている。計画では現在の地形をもとに4つのエリアに分けてゾーニングを決定し、エリアごとに整備を進めていく。現在は北側に一部のエリアが公開されており、多くの子どもたちが遊びにやってくる。広域公園の全域の開放は2032年に予定されている。

## 4. 計画概要

用途：児童福祉施設

敷地面積：10,656㎡

延床面積：1,570㎡

建築面積：1,570㎡

諸室：スタッフルーム・相談室・遊技場・おもちゃコーナー・絵本コーナー・ダンス室・音楽室・ファクトリー・キッチンルーム・宿泊室・浴室・休憩室・トイレ

### 4.1 設計趣旨

LTCの子どもたちのための通所ホスピスを計画する。難病を診断された、余命宣告を受け、生きることへの活力を失った子どもたち、またその家族が一瞬でも患者であることを忘れ、不安や退屈を解消することを考える。

### 4.2 計画敷地

現在広域公園として計画されている小柴貯油施設跡地の入口となる場所にホスピスを計画する。公園に遊びに来た子ども、またその家族がホスピスに訪問し、普段学校に通うことのできず不安や退屈を抱えている子どもに他人と交流する機会を与える。

### 4.3 芸術療法

ホスピスに通う子どもたちに行う療法として芸術療法を採用する。芸術療法とは絵画、工作、音楽、演劇、ダンス、などと言った芸術作品を想像する活動を行い触れることで健康回復を目指す心理療法である。芸術療法をホスピスに組み込むために芸術センターを併設する。芸術センターには各分野の金沢区近郊で活躍するアーティストに講師として子どもたちに指導を行う。そして子どもたちが創作したアートをアーカイブとして展示し続ける。アーティストが創作したアートの展示も行うことで、アーティストにとっては発表の場となり、子どもたちにとっては芸術活動を行うこと、芸術作品に触れることで健康回復を促す場となる。普段アートの触れている金沢区民にとっては日常に受け入れられやすいものとなる。また計画に伴い、敷地に残されている地下燃料タンクのあった遺構を円形劇場として改修を行う。この空間

は劇場としてだけでなく、広場としても利用される。

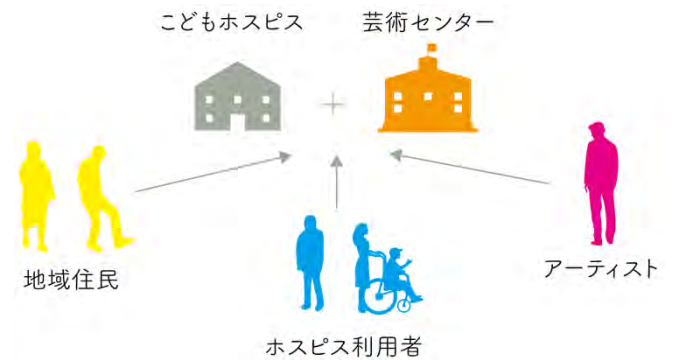


図2 ホスピスを核としたコミュニティ

### 4.4 設計提案

地下タンク遺構の円という形をデザインリソースとしてホスピスで行われる活動を定義した円を配置していく。定義された円は似通った活動や感情が起こるものどうしで接続したり付近に配置していく。接続配置した円を地下タンクの周りに構成していくことで子どもホスピスが一つの劇場空間となる。丸く包まれるような安心感のある空間が交わり合いながら、子どもたちの活動を柔らかく分節したり、連続させたりする。

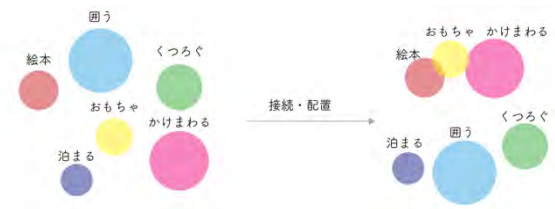


図3 デザインダイアグラム

## 5. 終わりに

難病の子どもたちは

- ・なぜ他のこと同じように遊ばないのか
- ・友達に会いたい
- ・お父さん、お母さんを悲しませてしまっている
- ・手術や治療が怖い

このようなことを考えている。そんな子どもたちが健常者と同じように喜び、楽しみ、笑い合っている世界を作りたい。

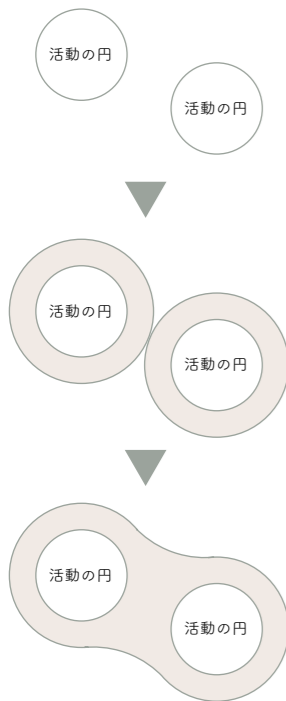
### 参考文献

- 1) 多田羅竜平：わが国の小児緩和ケアの現状と海外の状況、小児緩和ケアの現状と展望、No.1、pp.2-7、2017年1月
- 2) 一般社団法人日本臨床心理会：臨床心理士の面接 療法  
<http://www.jscpp.jp/near/interview4.php>  
2022年11月23日閲覧
- 3) 横浜市：旧小柴貯油施設  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/kichi/shisetsu/kyuukoshiba.html>  
2022年12月2日閲覧

• Concept

日本には難病の子どもたちが15万人いると言われている。その中でもLTC（生命を脅かす病気）と呼ばれる病気と戦う子どもたちは約2万人いる。そんなLTCの子どもたちは入院治療を終えた後、在宅で医療的ケアを行いながら病気と戦うのだが、そういったもの支援を行う施設、子どもホスピスは不足している。余命宣告を受け、生きる活力を失った子どもたち、またその家族が一瞬でも患者であることを忘れ、不安や退屈を解消することを考える。

• Design diagram



活動の円が配置され建築が構成されていく。

活動の円がオフセットされギャラリーアーカイブを形作る

オフセットされたギャラリーアーカイブどうしが結合され、道を作る。ホスピスに訪問しに来た人たちがアーカイブを練り歩き、活動の円の外でも新しい活動が行われる。

